現代に息づく歴史の源流を知る

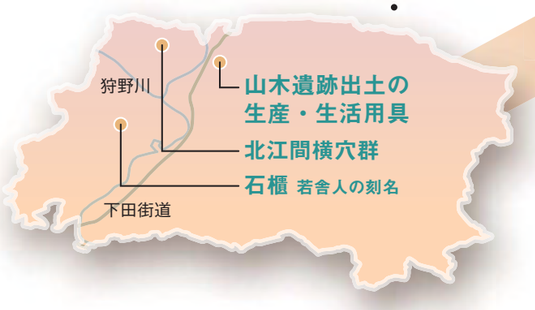
市内には原始・古代から近代にいたるまで、数多くの歴史資源が存在します。とくに重要かつ貴重なものは、国から『文化財保護法』に基づく指定を受けており、市内には15もの国指定・国登録文化財が存在します。史跡を守り、語り継ぐことは、まちを誇りに思う心を育て、次代につなぐ力となっています。

市内の国指定・国登録文化財

伝堀越御所跡

北条氏邸跡（円成寺跡）

◉鎌倉・室町・戦国時代



◉縄文・弥生・古墳時代

北江間横穴群

石櫃　若舎人の刻名（北江間横穴群）

山木遺跡出土の生産・生活用具

古代人の足跡を辿る

北江間地区には、7世紀後半から8世紀を中心とする47基の横穴群があり、そこから出土したのが石櫃です。さらに、弥生時代の生活をみることができる貴重な遺跡が、山木遺跡です。これは、登呂遺跡（静岡市）とともに日本の弥生文化を知る上で重要な遺跡として注目されています。

ジョン万次郎撮影旗本小沢氏像
（江川家関係写真より）公益財団法人江川文庫蔵

反射炉御取建中日記
（韮山代官江川家関係資料より）
公益財団法人江川文庫蔵

中川家住宅

旧菅沼家住宅（知半庵）
©IWASA / chihan art

◉江戸・幕末・明治時代

時代を動かした人物ゆかりの地

伊豆の国市は、その名を知らない人はいない歴史上の偉人「源頼朝・北条政子」「北条早雲（伊勢宗瑞）」「江川太郎左衛門（坦庵）」ゆかりの地です。

平治の乱に敗れた「源頼朝」は伊豆韮山に配流され、そこで地元豪族北条時政の娘「北条政子」と出会い結ばれます。現在は、配流された地〝蛭ヶ島〟で富士山を望む二人の像を見ることができます。

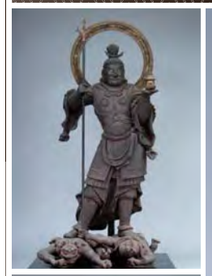
戦国時代のさきがけとして知られる北条早雲。伊豆支配と相模進出への足掛かりとした韮山城跡には、現在も堀や曲輪（くるわ）などが残っています。早雲は家督を小田原の氏綱に譲った後も韮山城にとどまり、終生の居城としました。

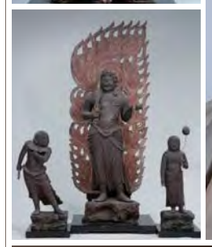
市内には蛭ヶ島や韮山城跡、江川邸など、彼らにゆかりの史跡が多く残されており、直に触れることができます。

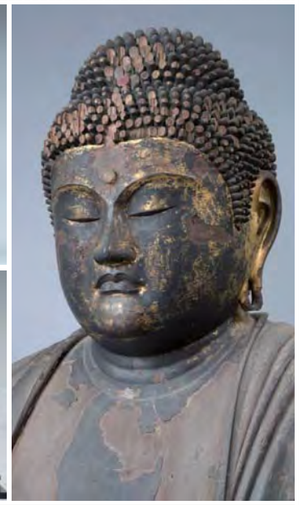
※江川太郎左衛門は7～9ページで紹介

国宝

願成就院　運慶作諸仏







文治５年(1189)、願成就院は源頼朝の奥州征伐戦勝祈願のため、北条時政によって建立された寺院です。この寺に安置されている木造阿弥陀如来坐像や毘沙門天立像を含む五体の仏像は、鎌倉時代を代表する仏師運慶が、時政の依頼を受けて造立したものです。これら仏は、「写実性」や「力強さ」という運慶様式の特徴が確立された頃の作品であり、その後の鎌倉彫刻様式の成立を示すものとして貴重であることから、2013年6月、国宝に指定されました。

（右）木造阿弥陀如来坐像
（左上）木造毘沙門天立像
（左下）木造不動明王及二童子立像